

第5回舞鶴市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成29年7月25日（火） 午後1時30分～午後3時

【場所】市役所本館4階 第一委員会室

【出席委員】青山委員、足立委員、内海委員、尾上委員、木谷委員、品田委員、
田中委員、谷口委員、西山委員、藤原委員、森委員、山川委員
(12名中12名出席：有効に成立)

【事務局】市民文化環境部長 飯尾、環境対策室長 平野、生活環境課長 福田、
清掃事務所長 本合、リサイクル事務所長 橋本、生活環境課主幹 田中

【傍聴者】1人

1. 開会

2. 議題

(1) 諮問事項に係る中間答申(案)について

- ・前回の審議会での協議内容をもとに事務局が作成した中間答申(案)について審議した。

【案文の修正】

(委員) 文中の「分別」「回収」「収集」「資源化」という言葉の定義を明確にして使い分けた方がわかりやすいのではないか。

(会長) ペットボトルについては「単独分別収集」とし、プラスチック製包装類は「分別収集・資源化」としてはどうか。

⇒ 一同異議なし、中間答申承認。

指摘部分については事務局で修正し、会長確認後に各委員へ送付することで一同了承。

【中間答申について】

(会長) 中間答申書は8月下旬に、山川会長と品田副会長で市長あて提出することとしてよいか。

⇒ 一同異議なし。

【ペットボトルの分別方法について】

(事務局) 今の分別方法では、ペットボトルのラベルを取る必要はない。単独分別収集を実施するにあたっては、ラベルを剥がしてもらうよう変更したいと考えている。

(会長) 新しい分別方法では、プラマークのついた容器包装類は全て「プラスチック容器包装類」として出すことになる。ペットボトル単独の袋が増えるだけで、分別方法としてはむしろこれまでよりシンプルになるということを手早く伝えていければ、受け入れられやすいと思う。

(2) その他

- ・事務局より以下の内容について説明を行った。
 - ①循環型社会の形成に向けて今後取り組むべき課題
 - ②舞鶴市における取り組み
 - ③今後のスケジュールについて

【海ごみとプラスチック問題について】

(委員) 海ごみには海外からの漂着物も多いが、2Rに取り組むことが、海ごみの削減にもつながると思う。

(会長) 地域差はあるが、海ごみの大部分が河川から流れてくるものであり、プラスチック製品をはじめとしたごみとなるもの自体の量を減らす取り組みと、川や海を清掃する取り組みの両方を行うことが大切である。

【食品ロスの削減について】

(委員) 子供がじゃがいもを剥いた時に、約1/4がごみになっていたという話を聞いて、もったいないなと感じたのを思い出した。

(会長) そういった過剰除去は家庭から出る部分もかなりあるので、こういう話を教育の場で啓発して、食品ロスを減らしてほしい。

【舞鶴市における取り組みについて】

(委員) 舞鶴のごみ分別区分が全国的に見て多いのか少ないのかわかるデータがほしい。

(会長) 一概には言えないが、全国的に10種類前後の区分の自治体が多い。

【今後のスケジュールについて】

(事務局) 中間答申を踏まえて具体的な収集方法等について方針を固めた後、来年度以降モデル事業を実施し、その翌年以降で本格実施をしたいと考えている。

< 全体を通しての主な意見 >

- ・出前授業のような教育の場での周知・啓発は、親や大人への意識づけにも繋がっていくため、大変有効であると思う。
- ・障害者や高齢者に対する細やかな周知や負担軽減等の配慮が必要だと感じた。
- ・今回の提案は、分別区分を見直すことで、資源化を促進し、更に資源としての品質も向上させるような改善をしようという内容だと考えている。
- ・リサイクルプラザで、プラスチック容器包装類やペットボトルの分別を行うと、作業量が増えてコストが上がってしまうため、家庭で分別することが環境のためであり、なおかつ費用対効果も良いと思われる。
- ・2Rに関する企業側の取り組みが知りたい。